

九十九自治協だより 第11号

九十九地区自治協議会 佐世保市下船越町 306-7 ☎/📠55-4525 平成31年1月25日発行

九十九地区自治協議会が設立されてから2年8ヶ月となりました。8ヶ町ならではの取組について、自治協議会とはどのような機能を果たしているのか、皆さんの生活にどの様に“具体的に”貢献できるかを模索しながら活動を行って参りましたが、この度地区住民の皆さんにご報告できる運びとなりました。今後も諸課題に対して九十九地区の総力を挙げて対応していく所存でございますので、諸活動へのご協力をお願い申し上げます。

編集委員長 総務部会長 民輪 覚

県道俵ヶ浦日野線の抱える問題について

佐世保市では岸壁の整備や誘致活動により、大型クルーズ船の来航が活発となっており、その勢いは衰えを知りません。国内だけではなく、諸外国においても九十九島の景観が広く認知されつつあることは喜ばしいことですが、九十九地区においては車両の通行に関して大きな問題が浮上してきました。

県道俵ヶ浦日野線(県道149号線。以下、県道とします)は赤崎地区、下船越町の小島地区の2カ所の峠を持つ“山道”で、その特性上つづら折りで見通しが悪く道幅は狭隘であり、かつ離合の場所が少なく用地の確保も難しいことに加え、両側の土地は個人(または法人)所有のため立ち木の繁茂に対して伐採等の手入れもできず、大型観光バスの激増により住民の交通に支障を来すようになりました。

既に発生している問題として、カーブにおいてバスが中央線をはみ出し接触しそうになる、バス同士が離合するために時間がかかり渋滞が発生する、の2点が挙げられますが、今後発生が想定される問題としては、車両同士の事故や緊急車両(警察、消防、救急等)の通行遅延による事故や災害に対する初動の遅れによって二次被害が発生が挙げられます。



完全にはみ出しています

あわや接触！



渋滞の発生(最長30分)



なぜ九十九地区自治協議会として取り組むのですか

問題となっているの道路は“県道”ではありますが、観光に力を入れているのは“佐世保市”であり、ここで起きている(または起きうる)問題については、行政が情報を把握しきれないことや問題を想定しきれない部分があります。また、場所としてはお隣の愛宕地区自治協議会の活動範囲ではありますが、九十九地区の住民の皆さんにとっては、通勤、通学、通院のいずれにも絶対的に必要な生活道路であり、地区外の問題ではありますが、関係各所に働きかけを行い具体的に解決方法を探る必要性があります。

個人や単一町内では対応しきれない部分でもありますので、8ヶ町というスケールを生かして長崎県、佐世保市、愛宕地区自治協議会に問題提起を行うことにより、解決を目指すという考えで一致し、活動に移りました。

どのような進捗がありましたか

- ① 特に問題の5ヶ所について地権者と交渉し、3ヶ所については協力を得ることができ、測量・土地の取得への道が開けました。今後の状況については追ってお知らせいたします。
- ② 市長を訪問し、愛宕地区自治協議会と合同で要望書を提出しました（平成30年9月5日）



写真左から柴山議員、民輪船越町公民館長、黒石事務局長、朝長市長、一人おいて大谷九十九自治協会长

- ③ 佐世保市議会平成30年9月定例議会において、柴山賢一市議会議員による一般質問の中で取り上げられ、市当局より「地域、市、県の合同検証は、三者の共通理解のもとで実態を把握し、事業推進を図る上で有効。調査を実施する方向で進めていきたい（要約）」との回答を得ました（平成30年9月13日）。
- ④ 九十九地区自治協議会、県北振興局、長崎県警、佐世保市役所による現地立会い調査を実施し、各担当部局職員と情報の共有ができました（平成30年10月22日）。
[画像は前掲の3葉になります。非常に危険な状況であることがお分かりいただけるものと思います]
- ⑤ 立会い後の意見交換会を市役所において開催しました（平成30年11月27日）。

この問題について皆様のご協力は欠かせません。今後の活動についてご理解ご参加をお願いします。